



事務事業の市民点検2019

最終報告

目次

1 実施概要について	1
2 最終報告について	6
3 総括について	9
4 事務事業一覧	14

2020 年 3 月
市原市

1 実施概要について

(1) 目 的

ア 持続的な改革・改善の仕組みを構築

総合計画に掲げる施策を着実に実施するためには、より効率的で実効性の高い行政経営を進める必要があります。そこで、総合計画を中心としたトータルシステムの中に持続的な改革・改善の仕組みとして、事務事業の市民点検を組み込みます。

イ 対話による改革・改善の推進

(ア) 職員の意識改革から組織文化の変革

点検での気づきから組織内対話を通じて、事務事業の原点に立ち返り、自律的な改革・改善を行えるよう組織文化の変革を促します。

(イ) 市民参画の更なる推進

点検を通じて更なる市民参画を図り、市民本位の行政経営を推進します。

(2) 点検の基本的な考え方

市が行う事務事業は、内容が目的達成の最適な手段となっているか、常に原点に立ち返り不断の見直しを行い、主体的な改革につなげることが必要であることから、市民との対話により点検を行いました。

点検の結果は、成果が目に見えるよう、実行計画、次年度予算、行財政改革アクションプランの見直し等に反映させます。

なお、点検の結果は、拘束力を持つものではありませんが、外部評価及び客観的評価として尊重し、説明責任を果たす必要があることから、点検結果及び反映結果は（反映できない場合は理由も付して）全て公開します。

(3) 全体スケジュール

5 月	・ 実施要領の策定、対象事務事業を選定 ・ 行政改革推進本部、行政改革推進委員会の開催 ・ 対話力向上研修 第 1 弾「組織内対話編」の実施
6 月	・ 市民へ募集案内の発送 ・ 対話力向上研修 第 2 弾「論点整理編」の実施
7 月	・ 市民点検員の決定、市民点検員研修の実施
8 月	・ 市民点検実施（8 月 3 日、4 日）
10～11 月	・ 中間報告の取りまとめ ・ 行政改革推進委員会へ報告 → 公表（ウェブサイト等）
1 月	・ 最終報告の取りまとめ
2 月	・ 行政改革推進本部へ報告
3 月	・ 行政改革推進委員会へ報告 → 公表（ウェブサイト等）

(4) 点検従事者数の実績

項目		1 無作為抽出 点検員		2 OB・OG※2				3 高校生・大学生		計	
				OB・OG点検員		市民提案員※3					
案内状発送		2,500 ※1		176				・京葉高校、望洋高校、 市原中央高校 ・千葉大学			
応募者（応募率）		73 （2.9%）		42 （23.9%）		9 （5.1%）		15		139	
研修 （参加率=研修/応募者）		57 （78.1%）		27 （64.3%）		1 （11.1%）		15 （100%） ※高校生14名は個別説明		100 （71.9%）	
市民点検 （参加率=点検/応募者）	上段 8/3	28	58 （79.5%）	20	41 （97.6%）	4	9 （100%）	8 内、大学生1	14 （93.3%）	60	122 （87.8%）
	下段 8/4	30		21		5		6		62	

■市民点検参加者 内訳

性別	人数	割合
男性	72	59.0%
女性	50	41.0%
合計	122	100.0%

年代	人数	割合
10代	17	13.9%
20代	11	9.0%
30代	7	5.7%
40代	23	18.9%
50代	17	13.9%
60代	22	18.0%
70代	23	18.9%
80代	2	1.7%
合計	122	100.0%

■市民点検 傍聴者数

77	・8/3(土) 43人 ・8/4(日) 34人
----	----------------------------

※1 18歳以上の市民を無作為に抽出して案内状を発送

※2 OB・OG＝過去の点検に参加したことのある市民点検員

※3 市民提案員＝OB・OGの内、事業の点検自体には直接関わりませんが、会場で対話を聞いていただき、提案シートにより御提案をいただくもの。いただいた提案は、市民点検員のものと同様に公表し、担当課へフィードバックする。

(5) 対象事務事業の選定

事務事業選定については、市原市総合計画に掲げる44の施策を単位に、図1に示す「市原市総合計画の施策体系図」の太枠内を点検テーマとして設定し、各テーマに紐づく事務事業を点検しました。2018年度に点検できなかった事務事業もあることから、昨年度の点検テーマも継続して対象としています。

1テーマにつき、2～4の事務事業を選定し、全部で32の事務事業を対象としました。選定した際の流れ、条件は、次のとおりです。

ア 選定の流れ

- ・ 自律的な改革・改善を推進するため、各部門からの提案方式にて、対象候補となる事務事業を提案しました。
- ・ その後、市の附属機関である市原市行政改革推進委員会に諮り、32の事務事業を選定しました。

※行政改革推進委員会では、実行計画事業の一覧と、その中から対象候補として選んだ事務事業をリストとして提出しました。

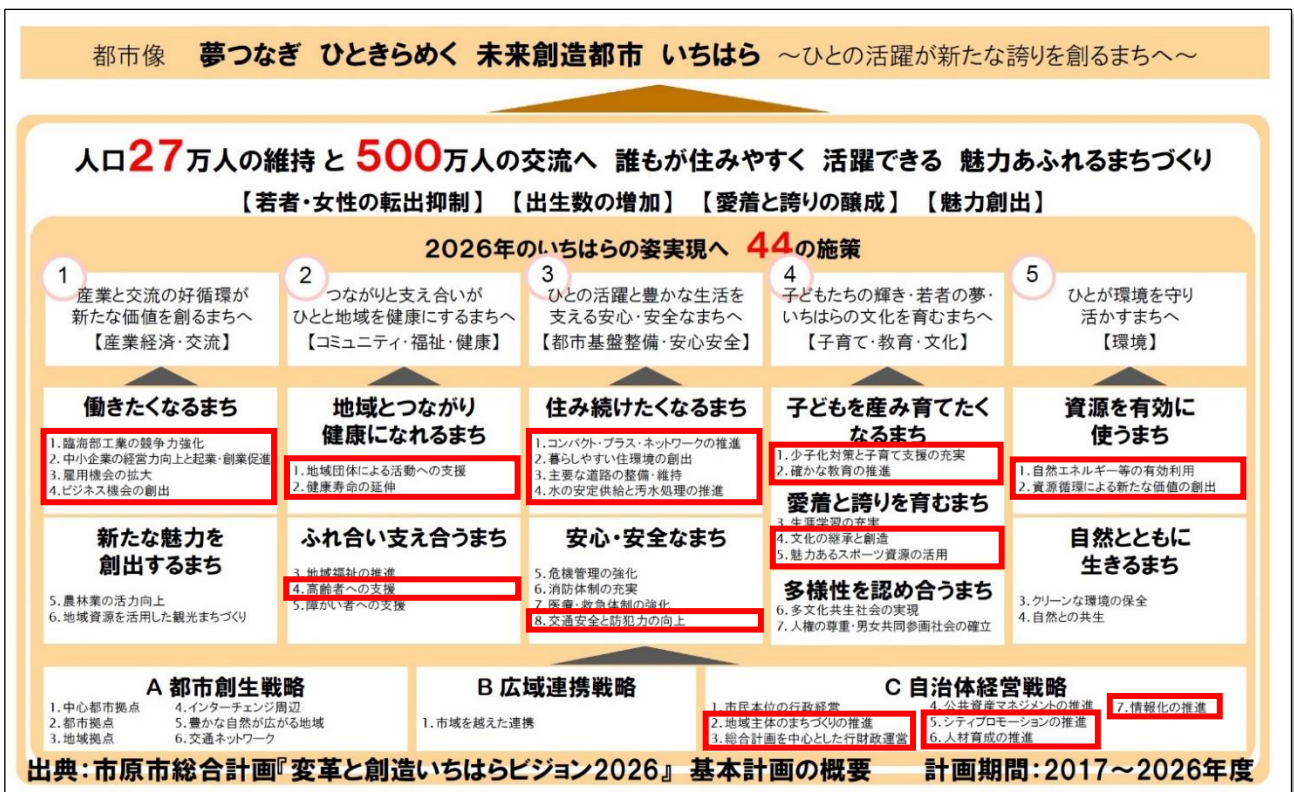
イ 選定の条件

- ・ 市民点検の効果を最大限に活用するため、市民点検による成果を期待できる事務事業を選定しました。
- ・ 2018 年度に市民点検を行った事務事業（36 本）は、市民点検の効果を広くもたすため、又、点検による改善効果等がまだ検証できないことから、今回は対象外としました。
- ・ 2019 年度の新規事務事業については、まだ実績がないため、対象外としました。
- ・ 専門的知見により検証が必要な事務事業、対象者数が限定されている事務事業、既に計画決定している事務事業は、対象外としました。
- ・ より効果的に点検を行うため、関係性のある複数の事務事業はまとめて点検しました。
- ・ 実行計画事業のうち、「市原市総合計画 第一次実行計画 2019 年度版」に事業名として具体的に掲載されていないものは、その事務事業の目的等に合わせ、点検しやすいよう整理しました。

（例）文化財普及啓発事業（標準経費の普及啓発関連経費）

青色防犯パトロール事業（自主防犯組織支援事業、安全パトロール実施事業）

図 1 市原市総合計画の施策体系図



(6) 点検方法と判定

ア 1事業の点検方法

事業説明	役割：説明員（市の担当課職員）	10 分		
	説明員が、市民点検用説明シート及び事業シートに基づき、事務事業の要点や補足を簡潔に説明しました。			
対話 質疑応答	役割：コーディネーター・各点検員	50 分		
	コーディネーター（構想日本スタッフ）が、対話が促進されるよう点検を進行しました。 点検員は、事務事業の内容や実績等について、質疑を行い、事業の在り方、実施方法等について対話を行いました。			
判定	役割：コーディネーター・各点検員	10 分		
	対話に基づき、判定シートを用いて結論を出し、結果及び内訳を公表しました。 なお、市民と職員が対話を通じて一緒に考え、自由な雰囲気の中で新たな発想を生み出すため、判定区分は以下のとおり、やわらかい表現としています。 <table border="1"><tr><th>判定区分</th></tr><tr><td>ちょっと待った！（廃止・凍結）</td></tr><tr><td>もう一歩！（要改善）</td></tr><tr><td>いいね！（継続）</td></tr></table> 判定以外にも、各点検員の御意見は、判定シートへ記入し、その内容を担当課へ回付しました。		判定区分	ちょっと待った！（廃止・凍結）
判定区分				
ちょっと待った！（廃止・凍結）				
もう一歩！（要改善）				
いいね！（継続）				
※時間は目安であり、点検内容によって増減あり		計 70 分		

※市民点検員には、半日単位の参加で 1,000 円の図書カードを進呈（事前研修参加も含む）

イ 判定結果の論点(キーワード)

事務事業の担当課が、改革・改善を具体的に進めていくため、判定のポイントと

なった論点（キーワード）をコーディネーターがとりまとめました。

また、点検員が判定に迷わないようにするため、判定基準を分かりやすくし、自由記載欄を設定しました。

2 最終報告について

(1) 最終報告までの流れ

32 の事務事業について、122 名の市民点検員の方々に参加いただきながら点検を実施しました。点検の結果、「ちょっと待った！（廃止・凍結）」が 0 事業、「もう一歩！（要改善）」が 27 事業、「いいね！（継続）」が 5 事業となりました。

事務事業の見直しにあたっては、調整等も必要なため、「中間報告」と「最終報告」の 2 段階に分けて報告することとしました。

中間報告では、「反映の方向性」と「担当職員の得られた気付き」に加え、今回から、判定に至った経緯を明らかにするため、「判定のポイントとなった理由」を詳細にまとめました。※事務事業一覧参照（P14 以降）

中間報告を経て、各担当課による事務事業の見直しや、庁内でのレビューを重ね、市民点検の成果として、以下のとおり最終報告を取りまとめました。

(2) 反映結果と反映先

市民点検の結果は、次のとおり反映することとしました。このうち、「改善」とした 28 の事務事業について、最終的な反映先は下表のとおりです。また、「継続」とした 4 つの事務事業については、事業目的や進め方について一定の評価は得られましたが、不断の見直しを図りながら進めていきます。

点検結果			最終報告（反映結果）		
判定	事業数		廃止	改善	継続
ちょっと待った！（廃止・凍結）	0	→	—	—	—
もう一歩！（要改善）	27	→	0	27	0
いいね！（継続）	5	→	0	1	4
合 計	32		0	28	4

【反映先】		
即時反映	実行計画・ 令和 2 年度予算	行財政改革 アクションプランⅡ
16	5	7
点検を受けて、すぐに改善して取り組むもの。例えば、ニーズ把握のためのアンケート調査の実施、効果的な事業周知のための SNS の活用 等	次期実行計画に位置付け、次年度当初予算に反映させるもの。例えば、次年度から廃止、または、事業費の増額（減額）を伴う場合など。	行財政改革 APⅡに位置付けるもの。例えば、事業主体や実施方法を見直したり、相手側との協議を複数年かけて反映させていく場合など。

(3) 点検による効果

市民点検の対話によって得られた気付きを基に、自律的な改革・改善につなげることができました。主な例は以下のとおりです。

※詳細は、P14 以降の事務事業一覧を参照

ア 実行計画・令和 2 年度予算へ反映させる事業

■若者の結婚支援事業

事業の目的と内容について、周知が不足していることに気付いたことから、次年度は、年間 3 回実施する婚活パーティーのうち、1 回分の周知について、これまでの手法に加え、ＪＲ駅、小湊鐵道バス車両への有料広告を新たに実施することとしました。更に、令和 2 年度から「婚活 in いちはら（婚活パーティー）＋（婚活セミナー）」に加え、当事者の結婚活動支援の輪を広げるため、親や親戚、友人など当事者の結婚活動を支援する方も参加対象とした大規模な婚活セミナー（婚活応援セミナー）を新たに開催することとしました。

また、カップル成立時に贈っていた市原湖畔美術館入園券を取りやめ、ニーズの検証を行うとともに、複数種類作成していた広報用のポスター等を見直し、集約を行います。

■租税教育・啓発事業、租税教室事業

啓発事業については、ティッシュ配布が徴収率向上につながらないという意見から気付きを得て、来年度は、ティッシュの配布場所を厳選し、配布数も減らして実施します。

租税教室については、実施校を増やすことが課題であるという指摘から、いただいた意見を含め、教育委員会と連携して未実施校に働きかけるなど、実施校の増加を図っていきます。

■いはら健倅フェスタ

周知が不足しているという指摘から気付きを得て、点検での意見を基に、10 月 20 日に健倅フェスタを実施しました。具体的には、保育園への周知について、これまで会場付近の 4 園に行ってきましたが、新たに市内全域の認定こども園や認可保育所・園計 31 カ所に拡大しました。また、ＪＲ 3 駅及び京成ちはら台駅にポスターを掲示し、駅利用者への周知に努めました。更に市医師会、薬剤師会を始め、関係団体に周知の協力を依頼しました。町会回覧による情報提供も新たに予定していましたが、災害の影響により未実施となりました。

その他、点検では、イベント後の次の行動につなげていくフォローも必要であると指摘があったことから、健倅フェスタの会場にて、次につながるような市の他事業を紹介するリーフレットも併せて配布しました。

次年度は、ポスターやリーフレットを増刷し、更に周知に取り組んでいきます。

■トイレ洋式化事業

スピード感を持って進めること、洋式化だけでなく老朽化対策も必要であるという意見から気付きを得て、当初、令和8年度に洋式化率50%を目標にしていたが、前倒して短期的、集中的に取り組むこととしました。

具体的には、校舎については、各校の児童生徒数に応じた個数を洋式化するとともに、老朽化したトイレの環境整備を実施します。体育館及び武道場は、災害時に避難所になることを踏まえ、全てのトイレを洋式化します。

こうした取組により、令和5年度までに全小中学校で洋式トイレが充足する「洋式トイレ学校充足率100%」を目指します。

イ 行財政改革アクションプランⅡへ反映させる事業

■地区まつり助成事業

制度に関する広報が不足しているという指摘から気付きを得て、まずは、地区まつりの実施主体である町会長連合会の各地区会と連携し、従来から周知手段としている市ホームページや広報いちほらに加え、SNSの活用など、効果的な周知方法の検討・見直しを行います。また、現在、1地区当たり22万円の補助金を一律に交付していますが、地区により、実施方法や規模等が異なることから、来年度、本事業の本来の目的に照らし合わせながら、算定の考え方等を整理します。

■ユニバーサルスポーツの普及事業

年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、様々な人の交流を図るため、ユニバーサルスポーツである「ボッチャ」の裾野を広げることが必要という意見から気付きを得て、まずは、利用促進・利便性の向上を図るため、これまで用具の貸し出し場所としてきた市役所に加え、他の施設でも貸し出しができるようにしていきます。また、市民団体と連携した「ボッチャ体験会」の開催などにより、更なる普及促進に取り組めます。

■緑化推進事業（生垣設置奨励補助金）

生垣設置後の維持管理が大変であるといった意見から気付きを得て、補助金要綱を変更し、これまで対象としてきた中木（成長すると2m以上になる）に加え、維持管理が容易な低木も対象とすることとし、補助金を活用してもらいやすくします。また、今後も住民ニーズを注視しながら緑化推進に努めていきます。

■文化芸術振興助成事業

補助金利用の応募数が少ないため、裾野を広げていく必要があるという指摘から気付きを得て、これまで行ってきた市ウェブサイトや広報紙での情報発信に加え、制度概要を記載したチラシを新たに作成し、他部署が開催している市のイベントや、公民館、学校等で配布し、制度の周知を図ります。

また、類似性のある補助金事業との整理を行い、市民の方々がより利用しやすい市民視点の補助制度となるよう検討していきます。

3 総括について

(1) 市民点検の成果検証

事務事業の市民点検は、無作為抽出の市民が市役所の仕事（事務事業）を直接点検する、全国でも先進的な取組として 2016 年度、2018 年度に続き、今年度で 3 回目の実施となりました。今回の市民点検自体の成果について、以下のとおり、当初の目的に照らし合わせて検証しました。

<目的1>

持続的な改革・改善の仕組みを構築

- ・ より効率的で実効性の高い行政経営を進めるため、総合計画を中心としたトータルシステムの中に持続的な改革・改善の仕組みとして、事務事業の市民点検を組み込むことを目的としています。
- ・ 市民点検は、2018 年度から 5 年かけて、総合計画に掲げる 44 の施策に紐づく事務事業を点検することとしています。5 年間での実施のうち、今年度は 2 年目に当たり、これまで 23 の施策に紐づく事業を点検してきました。
→残りの期間である 3 年間をかけ、残りの施策に紐づく事務事業の点検を実施していきます。
- ・ 事業選定は、トータルシステムにおける部門経営方針の作成にあわせ、各部門からの提案方式にて候補を選定してきました。
→今後、各部門の主体的な取組を促進させ、市民点検をより意義のあるものとしてくため、事業選定を含めてトータルシステムとの更なる連動を図り、持続的な改革・改善の仕組みを確立していきます。

<目的2-1>

対話による改革・改善の推進 —職員の意識改革から組織文化の変革—

- ・ 点検での気づきから組織内対話を通じて、事務事業の原点に立ち返り、自律的な改革・改善を行えるよう組織文化の変革を促すことを目的としています。
- ・ 今回の点検では、前回と比べ、組織内対話を活性化させるため、事前の説明員研修において、コーディネーターとの論点整理を充実させ、事業シートの作成期間を十分に設けてきました。

→説明員に対するアンケートでは、研修の成果が出せたかという問いに対し、「十分出せたと思う」「まあまあ出せたと思う」「出せたと思う」を合わせると9割以上となり、前回アンケートの6割に比べ、非常に高い結果となりました。また、市民点検員及び傍聴者に対するアンケートでは、説明員の説明に対して、「分かりやすくなった」と回答した割合が前回よりも1～2割高くなりました。

→事前研修や事業シートの作成をきっかけとして、事務事業の原点に立ち返り、上司と部下の間で組織内対話が活性化され、得られた気付きに基づき、自律的な改革・改善につなげることができました。その後、「いいね！（継続）」と判定された事業でも点検の気付きを受け、各担当課による見直しや、庁内でのレビューを重ね、更に改善して取り組むこととしたり（例：トイレ洋式化事業では、「いいね！（継続）」から「改善」とした）、先の災害では、広報紙の号外や被災者相談コーナーを設置したりするなど、各部門が自分達に今できることは何かを考え行動する主体的な取組が生まれ、組織文化の変革につなげることができました。

- ・また、今回から、判定に至った経緯を明らかにするため、「判定のポイントとなった理由」を詳細にまとめました。

→これにより、担当課が改革・改善していくべき点が明確となり、点検後の組織内対話の更なる活性化につなげることができました。

＜目的2-2＞

対話による改革・改善の推進 —市民参画の更なる推進—

- ・点検を通じて更なる市民参画を図り、市民本位の行政経営を推進することを目的としています。

ア 参加率

- ・今回の点検では、市民点検員の応募率向上を図るため、募集時点で点検テーマを提示しました。

→応募率は、2.9%で前回と変わりませんでしたが、応募時にテーマを提示して選択できるようにすることで、事務事業を想定した事前の関心や準備を促すことにつながり、その後の参加辞退する割合を前回よりも低く抑えることができました。これにより、より多くの市民が関わり、市民参画の推進につなげることができました。

イ 対話の促進

- ・多くの市民が点検に関われるよう、市民提案員制度を取り入れ、会場数を3会場から4会場へ増やして実施しました。

→今回は122名の市民の方に参加いただきましたが、会場を4会場とし、市民提案員制度を導入することで、1グループ当たりの人数が多くなり過ぎず、多くの市民の方に参加いただきながらも、対話を促進することができました。

しかし、市民提案員制度については、立ち位置がわかりにくいといった意見が多くありました。

ウ 幅広い世代の参加

- ・幅広い世代からの意見をいただくため、これまで参加率の低かった若い世代である高校生や大学生に対して、広く参加を働きかけました。

→参加高校がこれまでの2校から1校増え、3校になりました。また、千葉大学に参加を投げかけたところ、1名の学生が参加してくれることとなり、行政に対する注目度の高さが伺えるとともに、市民参画の更なる推進を図ることができました。

エ 点検時間

- ・対話の時間を十分に確保するため、点検時間を1事業当たり60分から70分としました。それに伴い、前は午前3事業、午後3事業の点検を行っていましたが、今回は、午前2事業、午後2事業で実施することとし、自己紹介や感想を述べる時間も確保しました。

→OB・OG点検員からのアンケートでは、「過去2回に比べて、全体のスケジュールが最も良いと感じた」という意見もありました。70分とすることで、余裕をもった点検を実施することができ、より深化した対話を行うことができました。

オ 判定

- ・点検員が判定に迷わないようにするため、判定シートに自由記載欄を設定しました。

→「判定はいいね！（継続）だけど、ここは改善して欲しい。」といった場合でも自由に記載してもらうことで、より具体的な意見をもらうことができ、各課にその内容をフィードバックすることができました。

(2) 今後の取組について

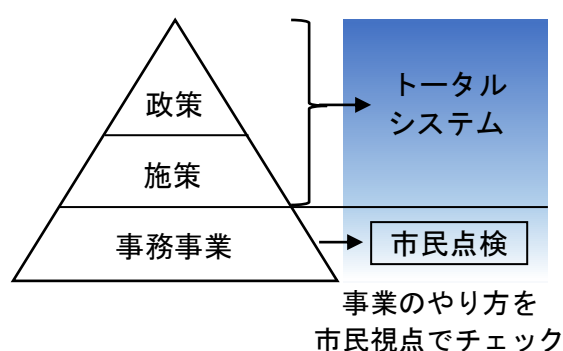
今回の実施で見えてきた課題について、次回取組につなげられるよう整理しました。

ア 庁内横断的な課題の解決

- ・総合計画に掲げる 44 施策に紐づく事務事業の点検が終了した後、事業選定について別の方法が定まっていないことが課題として挙げられます。

→総合計画に掲げる 44 の施策に紐づく事務事業の点検については継続しつつも、事業選定の切り口を変え、内部的な事務など、全庁的な改革・改善の視点による横串テーマ等を検討します。

→トータルシステムとの更なる連動を図るため、トータルシステムの成果検証の時点から、事業選定の検討を進めていきます。点検による「気付き」を受けてサイクルのチェックを行うことで、市民視点の改革につなげます。また、点検の対話の中で市民の理解を得て、ビルド&スクラップを推進します。



	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
マイルストーン						変革方針			実計策定・予算編成方針				
点検			事業選定			市民点検				中間報告		最終報告	
実計	成果検証			レビュー			レビュー			レビュー			
予算												内示	決定

イ 更なる対話の活性化

- ・説明員のアンケートでは、半数以上が「気付きがあった」、「納得した」と回答したにもかかわらず、改革意欲が 39%に留まりました。今後は、改革意欲を高める取組が必要となります。

→改革意欲を高めるには、組織内での対話により、事務事業の見える化を進め、情報をオープンにしていくことで、自浄作用を働かせることが重要です。これにより、次の改革意欲のきっかけとなり、自律的な改革・改善につなげていきます。

→今後は、組織内対話を進化させ、「組織間対話」により、庁内の部門間での対話を促進し、複数の部門にまたがる課題への取組強化など、更なる改革・改善の推進を図ります。

ウ 論点深掘りと OB・OG の活躍

- ・点検の回を重ねるごとに、OB・OG の視点や論点の捉え方の的確さが増していますが、まだ制度として活かしきれていないことが課題と挙げられます。
- ・また、今回から導入した市民提案員制度については、立ち位置がわかりにくいといった意見が多かったことから、仕組みの見直しが必要です。

→市民視点を活かした論点の掘り起こしを進めるため、事前に実施する市民点検員研修について、新たに点検員となった方と、OB・OG で分けて実施します。OB・OG 向けの研修では、論点出しや論点の深掘りが行えるような研修内容としていきます。次回の点検では、研修を受けた OB・OG に「論点整理員（仮）」としてキーマンになっていただくなど、更なる市民参画を図ります。

エ その他の課題への対応について

- ・点検時に使用する「市民点検用説明シート」と「事業シート」の説明が重複してしまう場面がありました。

→両シートの記載事項を整理し、使い分けができるようにしていきます。

- ・点検会場が暑いという意見が多く寄せられました。

→新庁舎を使用する等、別会場で実施できるよう調整します。

事務事業の市民点検 2019 事務事業一覧

■点検結果が「もう一步！（要改善）」、最終報告が「即時反映」となったもの（16事業）

No	事務 事業名	担当課	【点検結果】						【中間報告】	【最終報告】							
			判定	内訳			参考			判定のポイントとなった理由	反映の 方向性	担当職員の 得られた気づき	ア 反映結果	イ 反映先	ウ 効果額(千円)		エ 市の考え方等 (具体的な見直し内容や方針)
				ちょっと 待った！ (中止・ 凍結)	もう一 歩！ (要改 善)	いい ね！ (継続)	コ・デ ィネー 判定	市民 提案員							スクラップ (減額)	ビルド (増額)	
1	ウェブサ イト・ SNSを活 用したシ ティプロ モーション	シティ プロ モー ション 推進課	もう 一歩！ (要改善)	0	6	1	いいね！ (継続)	—	何をどの媒体で発信すべきかを考え続け、市の魅力を最大限に発信して欲しい。何らかのインセンティブ（見たらクーポンが手に入るなど）があっても良いのではという意見があった。 また、そもそも、市役所についての興味を高める対策が必要ではないかという意見や、広報が届かない人への対応も重要であるとの意見もあった。 その他、SNSで市の魅力を発信する内容としては、美しい風景や食べ物の写真などが効果的であるとの意見が多かった。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	即時 反映	市公式SNSの存在そのものを知らないという意見が多かったため、投稿内容の充実を図るとともに、アカウントの存在を周知することがまず重要だと感じた。 SNSに誘導するインセンティブになるような取り組み（クーポンの発行等）を増やし、アカウントの存在そのものを周知していきたい。 また、市原の風景や食を投稿するとよいと指摘があったため、拡散されそうな美しい風景などを市政情報の合間に投稿するなど、SNS特有の親しみやすい砕けた投稿も意識的に行いたい。市が発信したい市政情報だけでなく、フォローのいいね！が増えるような“行政らしくない”投稿も効果的に行いたいと思う。	改善	即時反映	0	0	市の魅力を広く発信し、いちばらファンの獲得や交流人口の増加に向けた強化を図るため、これまで秘書課で管理・投稿してきた市長Instagramを、他のSNSと併せて、シティプロモーション推進課で一元管理することとした。また、SNSの運用については、点検で風景や食などを投稿すると効果的であるという指摘があったことから、市政情報と併せて市内の美しい風景や食など、興味を持ってもらえるような写真などを発信し、アカウントの存在を周知していく。	
2	青色防犯 パトロール 事業	危機管 理課	もう 一歩！ (要改善)	0	4	3	もう 一歩！ (要改善)	もう 一歩！ (要改善)	市民にとっては関連事業も含め、誰が担ってくれているのか分かりにくいのでは。青色防犯パトロール、徒歩のパトロール、高校生の活動などをもっと周知した方がよい。地域での取組が増えていくよう、町会や自主防犯組織へのPRが必要ではないかといった意見があった。 また、警察ではなく市がこの事業をやる理由、必要性を理解してもらう工夫をしたらどうか。防犯件数の推移などをデータで示し、根拠に基づいた説明を深めていけると良いといった意見があった。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	即時 反映	市民、警察、市がそれぞれの特性を生かしたパトロールを行うことが犯罪抑止に重要だと感じた。 また、広い市域を1台では足りないのではという意見や、もっと自主防犯組織への働きかけを強化すべきではとの声があり、参考になった。	改善	即時反映	0	0	犯罪の発生防止に対する市民の意識高揚を図り、全ての市民が安心・安全に生活できるようにするため、市が行っている防犯パトロールの必要性を理解してもらえるよう、データに基づいた説明や事例を挙げるなどの説明を行っていく。また、地域の自助・共助の取組が積極的に行われるよう、広報いちばらやウェブサイト、町会回覧等に制度情報を掲載し町会や自主防犯組織へのPRや働きかけを行う。	
3	生活支援 体制整備 事業	地域包 括ケア 推進課	もう 一歩！ (要改善)	0	7	2	もう 一歩！ (要改善)	もう 一歩！ (要改善)	困りごとがあってもどこに相談したらよいかかわからないので、制度の全体像を分かりやすく示すことが必要だと思う。分かりやすさが周知につながるのではないかと。制度が整っていたとしても、市民がその制度を知らなければ課題解決は難しいといった、周知に関する意見が多かった。 また、地域の中でも孤立し、支援が必要な高齢者がいるかもしれないので、地域の高齢者の情報をしっかりと集めることが重要だという意見があった。 その他、民生委員をやっている方からは、共助の取組は市が思っている以上に進んでいる、情報共有して抜けているところを対応して欲しいといった意見もあった。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	即時 反映	本事業は昨年度、地域の高齢者を支える仕組みが整ったところであり、今回の点検員からの指摘で、あらためて制度が十分に周知されていない点を認識した。 高齢者をはじめ、高齢者を支える若い世代にも、本制度を分かりやすく周知していくことが必要であると認識した。	改善	即時反映	0	0	これまでは、主に制度の対象者である高齢者に対して周知を行ってきたが、点検において、地域の中で孤立し、支援が必要な高齢者もいるかもしれないという意見があり、高齢者だけでなく、高齢者を支える世代への周知も必要であると気付いた。そこで、広報いちばらの特集（2月15日号掲載予定）やウェブサイトにも制度情報を掲載し、周知を行う。	

No	事務 事業名	担当課	【点検結果】						反映の 方向性	【中間報告】 担当職員の 得られた気づき	ア 反映結果	イ 反映先	【最終報告】		エ 市の考え方等 （具体的な見直し内容や方針）
			判定	内訳			参考						ウ 効果額(千円)		
				ちょっと 待った！ (廃止・凍結)	もう一 歩！ (要改善)	いい ね！ (継続)	コディ ネーター 判定	市民 提案員					スクラップ (減額)	ビルド (増額)	
4	子育て家庭支援員活動事業	子ども福祉課	もう一歩！ （要改善）	0	6	0	もう一歩！ （要改善）	—	即時反映	訪問後の行政との情報共有や連携は現在も緊密に行っているが、その重要性について再確認したため、今後も継続していく。 また、訪問後の意見を聞く機会として、アンケート等について検討していく。	改善	即時反映	0	0	子育て家庭の孤立化を防ぐとともに、子育てなどの不安を解消するため、乳児家庭全戸訪問を行っているが、訪問後の行政との情報共有や連携の重要性を再確認した。 また、支援員の役員会等において、点検でいただいた市民意見を共有した。 加えて、子育て家庭に対する事前案内として、令和元年10月から市民課前の電子モニターにて、乳児家庭全戸訪問の情報発信を行うとともに、地域情報誌に子育て家庭支援員の特集記事を掲載した。 今後、乳児家庭全戸訪問後のアンケートについて、具体的な手法を検討したうえで実施していく。
【事業目的】 乳児家庭全戸訪問事業では、すべての乳児のいる家庭を訪問し、子育て家庭の孤立化を防ぐために、その居宅において様々な不安や悩みを聞き、子育て支援に必要な情報提供を行うとともに、専門的な支援が必要な家庭に対しては、適切なサービス提供に結び付けることにより、地域の中で子どもを健やかに育てできる環境の整備を図る。															
【事業内容】 「概ね生後4か月児のいる家庭」または「転入してきた1歳未満児のいる家庭」に向けて、乳児家庭全戸訪問事業で、情報提供や子育て相談などを実施している。また、「（小学校入学前の）市内の子育て家庭」に向けて、親子のふれあい事業で、こどもフェスタなども実施している。															
5	母子保健事業（栄養・食育関連事業）	子育てネウボラセンター	もう一歩！ （要改善）	0	5	1	もう一歩！ （要改善）	—	即時反映	対象者のニーズにあった内容なのか精査する必要がある。 配布物や情報の多さについての指摘は、他の事業についても同様の傾向があり、検討の必要性を改めて認識した。	改善	即時反映	0	0	子育て世代の親のニーズに合った事業内容なのか、精査する必要があるという気づきを得たことから、いただいた意見を基に、事業内容を見直ししていく。まずは所内において離乳食教室の見直しを進めている。また、講座等を実施した際の紙媒体の配布物が多いという指摘を受けたため、当該事業だけでなく、ネウボラセンター全体で情報を集約し、分かりやすくするとともに、紙以外のウェブサイトでの情報発信も行っていく。
【事業目的】 妊娠期、授乳期や離乳食、幼児食に関する教室の開催や栄養相談を行うことにより、妊娠中や子育て中の「食」に対する親の不安を軽減し、安心して子育てができるようにする。															
【事業内容】 妊婦や子育て中の保護者に対して、妊婦自身や子どもの食事に関する不安を軽減するため、管理栄養士等による食事の教室などで栄養相談や調理実習を行っている。															
6	ごみ減量850推進事業	クリーン推進課	もう一歩！ （要改善）	1	5	0	もう一歩！ （要改善）	いいね！（継続）	即時反映	生ごみ肥料化容器や生ごみ処理機の一層の普及促進のためには、家庭菜園などでの堆肥の活用など、市民に楽しく使用いただくような伝え方の工夫が必要であることなどについて気付くことができた。今後、広報いちばらやHPなどで周知を図る際に、この気づきを活かしていきたい。	改善	即時反映	0	0	ごみ減量の動機付けになるような伝え方の工夫が必要であるという気づきを得たため、今までは、ごみ減量についてストレートな伝え方をしてきたが、肥料化したごみは家庭菜園や花壇で使えるなど、市民がメリットをイメージできるような伝え方をしていく。広報いちばら11月15日号のごみ減量に関する記事の中で実践した。
【事業目的】 家庭から排出される生ごみの自家処理を促進し、ごみの減量化を目的としている。															
【事業内容】 生ごみ肥料化容器又は生ごみ処理機を購入した者に対し補助金を交付し、ごみ処理機等を各家庭に普及促進している。															
7	合併処理浄化槽普及事業	クリーン推進課	もう一歩！ （要改善）	0	4	2	いいね！（継続）	もう一歩！ （要改善）	即時反映	平成31年度から配管費補助等を追加して、補助金の増額を図っている。引き続き補助金の増額を模索するとともに、合併処理浄化槽を設置する必要性や補助事業を広く浄化槽区域の世帯に認知してもらう手段として、町会を活用するなど、様々な手法で更なる合併処理浄化槽への転換促進の周知を図る必要があると感じた。	改善	即時反映	0	0	水質汚濁防止を図るため、合併処理浄化槽の普及率を上げるには、市民に合併浄化槽の必要性を認知してもらえるような周知を行うことが重要であるという気づきを得た。そこで、今後は、市の生涯学習出前講座「おでかけくん」に浄化槽のメニューを追加し、地域全体に呼び掛けられるように検討していく。
【事業目的】 合併処理浄化槽の普及を促進し、生活排水による公共用水域の水質汚濁防止を図る。															
【事業内容】 合併処理浄化槽を設置する人に対して、設置費用の一部助成として補助金を交付している。															

No	事業 事業名	担当課	【点検結果】						【中間報告】		【最終報告】				
			判定	内訳			参考		反映の 方向性	担当職員の 得られた気付き	ア 反映結果	イ 反映先	ウ 効果額(千円)		エ 市の考え等 (具体的な見直し内容や方針)
				ちょっと 特った！ (停止・ 凍結)	もう一 歩！ (要改善)	いい ね！ (継続)	コ・デ ィネー ター 判定	市民 提案員					スクラップ (減額)	ビルド (増額)	
8	人づくり 職業能力 開発等支 援事業	商工業 振興課	もう 一歩！ (要改善)	0	6	1	もう 一歩！ (要改善)	もう 一歩！ (要改善)		実行計 画・次 年度予 算	改善	即時反映	0	0	就労支援を目的としている事業であるが、今回いただいた意見のとおり、この事業を実施することで、どの程度の効果があるのかを図れるようにするため、成果指標を再検討していく。
			【事業目的】 就労を希望する若者や女性などの資格取得を支援し、雇用の拡大を図るとともに就労者に向けた講習や労働相談等により、就職後の職場定着を図り長期雇用へとつなげる。また、子育て中の女性・中高年齢者向けのセミナー等を実施し、再就職の促進を図る。 【事業内容】 委託により、資格取得講座（簿記2級等）の開催、キャリアカウンセラーによる個別就労相談の実施、単独で新人研修開催が困難である中小企業向けの新人講習などを実施している。						成果目標と成果指標を明確に設定すべき。資格取得は目的ではなく手段であることを認識する必要がある。女性の就業率を目標に加えるべきだという意見があった。 また、現状把握と、分析（年齢別のデータ、年度ごとのニーズ変化、相談内容など）の充実が必要。就職状況は、年齢、性別で異なることから、ターゲットは適切かどうかといった意見もあった。 その他、簿記の資格取得支援は効果的であるといった意見や、介護の資格取得支援にもっと力を入れてもよいのではという意見もあった。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。						
9	ふるさと 名物応援 事業	商工業 振興課	もう 一歩！ (要改善)	0	5	2	もう 一歩！ (要改善)	いいね！ (継続)		即時 反映	改善	即時反映	0	0	これまで、商品開発のための補助金を交付してきたが、商品を作った終わりではなく、その後のPRも重要であるということに気付いた。市による宣伝や事業者へのフォローアップとして、次回の上総いちばら国府まつりにおいて、商品開発事業者の専用ブースを作り、商品のPR等を行っていく。
			【事業目的】 「ふるさと名物応援宣言」に基づき、小湊鉄道などを軸として、地域の特性や市内の多様な地域資源を活かした魅力的な商品開発など新たなビジネス創出につなげ、いちばらのブランド力向上と地域経済の活性化を目指す。 【事業内容】 地域資源を活用した観光ツアーや商品開発などに取り組む事業者に対し、補助金を交付している。						マーケティングは適切か（商品、価値、ターゲット、プロモーション）。作った品を売るのが、売れるものを作るのか、考え方が異なる。資源を活用することは必要だが、売れるものを作るという支援も必要ではないかといった意見があった。 また、付加価値が高ければ、価格設定が高くても期待できるのではないか。そのために、こだわりは必要。ここでしか食べられないという限定性も重要になるのではといった意見もあった。 その他、採算性がどうなっているか把握しておくべきという意見や、商品宣伝に関しては、クチコミやSNSを活用すると良いといった意見があった。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。						
10	スポーツ ボランティア活 用事業	スポーツ 振興課	もう 一歩！ (要改善)	0	4	3	もう 一歩！ (要改善)	もう 一歩！ (要改善)		即時 反映	改善	即時反映	0	0	参加者アンケートによる意見集約やニーズ把握等を通じて、制度運営の充実を図るとともに、参加実績に応じた従事業務のレベルアップなど活動意欲の向上につながる仕組みを整備する。 また、誰もがスポーツボランティアとし活躍できる場の提供を目指し、障がいのある方にもスポーツボランティアとして参加してもらえるよう、募集方法の見直しや受け入れ態勢の整備に取り組む。
			【事業目的】 スポーツを推進する3つの視点である「する」・「みる」・「ささえる」のうち「ささえるスポーツ」に参加する市民を増加させるとともに、スポーツボランティアをきっかけとしたボランティア文化の醸成により、共に支えあうまちづくりを目指す。 【事業内容】 各種スポーツ・レクリエーションに関心のある市民のために、様々なスポーツ大会などで運営を補助するボランティアとして活躍する場を提供している。						事業の目的、目標値、あるべき姿を把握した上で、取組の見直しをしたら良いと思う。現在積極的に募集をしていない簡単な活動内容でもやってもらえば、「ささえている」という気持ちの醸成されるのではないかと。活躍する大会も増やしていくべきではないか。小さな市レベルの大会でも、まず経験を積んでいかないと、大きな大会に向け知見が増えていかないとはいないかといった意見があった。 また、参加者の枠を広げるためには、SNS等を活用した広報などをした方が良いといった意見や、始まったばかりの事業なので、課題と成果を見るためにも、参加者へのアンケートをもらったらいのではないかとといった意見があった。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。						

No	事務 事業名	担当課	【点検結果】						判定のポイントとなった理由	反映の 方向性	担当職員の 得られた気づき	【最終報告】				
			判定	内訳			参考					ア 反映結果	イ 反映先	ウ 効果額(千円)		エ 市の考え方等 (具体的な見直し内容や方針)
				ちょっと 待った！ (廃止・凍結)	もう一 歩！ (要改善)	いい ね！ (継続)	コーディネーター 判定	市民 提案員						スクラップ (減額)	ビルド (増額)	
11	スポーツ合宿誘致事業	スポーツ振興課	もう一歩！ (要改善)	1	7	0	もう一歩！ (要改善)	—	目標設定が不明確ではないか。どのレベルのチームを何回呼び込み、関わる市民がどのくらいいて、経済波及効果をどのくらい想定するのかという点を明確にしていた方が良いという意見があった。 また、市原市には素晴らしいスポーツ施設があるので、市民にとっても市外のチームにとっても有効活用できるよう、対象を柔軟に周知を進め、宿泊施設等との連携も検討していった欲しい。市内の高校ではなく、県内の有名校にアプローチして使用実績を作るとPRになるのでは、といった意見もあった。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	実行計画・次年度予算	スポーツ合宿を誘致する目的やターゲットを明確にし、誘致するためのPR方法を見直す必要があると感じた。	改善	即時反映	0	0	事業の目標設定が不明確であるという指摘があったことから、誘致する目的やターゲットを明確にする。将来的には「スポーツコミッション」や「観光DMO」と連携して、本市の優れたスポーツ施設を通じて、市をPRできるように取り組んでいく。併せて市民のスポーツへの関心を高める。
12	道路特定事業（バリアフリー化の推進）	道路建設課	もう一歩！ (要改善)	0	5	2	もう一歩！ (要改善)	—	バリアフリーを担うのは行政だけではなく、企業などの社会貢献に働きかけてはどうか。障がい者などが事前につかり調べて外出できるような情報発信が必要だと思うので、ハード面に加えてソフト面でも工夫できると良いといった意見があった。 また、整備エリアについては、駅周辺に限らず、身近な生活上のエリアも必要ではないかという意見があった。 その他、障がい者の視点だけでなく、観光客に対しての視点も重要ではないかという意見もあった。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	実行計画・次年度予算	整備を行うだけではなく、整備した箇所の周知、PRが必要であると感じた。予想以上に、段差解消の推進が求められていることを感じた。 点字ブロック等の整備に係る財源を民間から調達する仕組みづくりについて、検討の必要性を感じた。	改善	即時反映	0	0	障がい者の方々は、外出前に向かう場所のバリアフリーの状況を調べてから行くこともあるため、ただ整備するだけではなく、整備した箇所の情報を周知していくことも必要であることに気付いた。今後は、障がい者の方々が安心して移動できるよう、ウェブサイト等への情報掲載を検討していく（バリアフリーマップ等）。また、重点整備地区内におけるハード整備については、開発行為などの機会に合わせて民間協力を要請していく。
13	水道管漏水の対応	給水課	もう一歩！ (要改善)	0	7	0	もう一歩！ (要改善)	—	水道管の更新が追いついていないので、もっとスピード感を持って進めて欲しい。安心安全のため、予算を増やしてもしっかり対応すべき。主な漏水の原因が老朽化なのであれば、漏れてから対応するのではなく、計画的、効率的に管の更新ができる方法を考えた方が良くと思うといった意見があった。 また、将来的には、県水との統合を検討し、人件費等の削減を考えてはどうかという意見もあった。 その他、水道管の総延長、その内の老朽化率、1年で更新できる延長など、具体的なデータを示した方が良くという意見があった。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	即時反映	水道は市民生活に必要な不可欠なライフラインであることから、漏水などについて、身近な問題として、たくさんの意見をいただき、水道の大切さを再認識した。 漏水の根本的な解決は、水道管の更新に負うところが大きいので、今後、漏水の調査と並行して効率的・効果的な更新を計画的に進めるとともに、県営水道との連携などについても積極的に千葉県に働きかけていきたい。	改善	即時反映	0	0	職員で漏水調査チームを編成して定期的な調査を実施し、漏水の早期発見に努めるとともに限られた予算の中で、最大限の効果を得られるように更新順位を再検討し、計画的な管路更新を実施する。また、国・県に対し補助金等の採択要件の緩和などを要望し、更新の財源確保に努めていく。加えて、千葉県に将来的な県営水道との連携等についても、積極的に働きかけていく。

No	事務 事業名	担当課	【点検結果】						【中間報告】		【最終報告】					
			判定	内訳			参考		判定のポイントとなった理由	反映の 方向性	担当職員の 得られた気づき	ア 反映結果	イ 反映先	ウ 効果額(千円)		エ 市の考え方等 (具体的な見直し内容や方針)
				ちょっと 待った！ (凍止・ 凍結)	もう一 歩！ (要改善)	いい ね！ (継続)	コディ ネーター 判定	市民 提案員						スクラップ (減額)	ビルド (増額)	
14	上下水道 料金の滞 納処理に ついて	給水 課、下 水道管 理課	もう 一歩！ (要改善)	0	6	1	もう 一歩！ (要改善)	もう 一歩！ (要改善)	滞納者の支払い能力の分析ができていない。滞納者への対応や分析については、改善の余地がある と考える。滞納者が特定されているケースが多いた め、早めの対応が必要といった意見があった。 また、滞納防止の資料等を分かりやすく作成配布 してはどうかといった意見もあった。 その他、口座振替が多くなると安定的に収入につ ながるため、口座振替を拡大した方が良いという 意見もあった。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改 善）」となった。	即時 反映	滞納を増やさないためにも、滞納者へ の早期対応、また、滞納者の支払能力 や理由の分析が必要であると再認識し た。 口座振替を推奨することで、納付書請 求による支払い忘れの抑止にも繋がる ため、その利点を示す等で、口座振替 率の向上を図ることが有効であると再 認識した。	改善	即時反映	0	0	料金滞納を増やさないためには、滞納者の支 払能力や理由の分析が必要であるという指摘 から気づきを得て、福祉部門と連携し、滞納 者が生活困窮者であるかなど、状況の把握を したうえで適切な対応を図る。また、口座振 替の推奨はこれまでも行ってきたが、改め て、口座振替の利点を積極的にPRするととも に、より利便性の良いキャッシュレス決済の 導入を検討し、収納率の向上を図る。
15	下水道の 普及促進	下水道 建設 課、下 水道管 理課	もう 一歩！ (要改善)	1	4	2	もう 一歩！ (要改善)	もう 一歩！ (要改善)	補助金の効果測定や、見直しが必要であるという 意見があった。 また、下水道未接続の住民の分析（補助体制はど の程度か、合併処理浄化槽はどの程度かなど）が 必要との意見もあった。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改 善）」となった。	即時 反映	公共下水道の目的は何かという原点に 戻り考える必要があることや、浄化槽 から公共下水道へ切り替えることの経 済的メリットを示していく必要がある と感じた。 また、個別訪問や補助金についての効 果測定をより深く行う必要を感じた。	改善	即時反映	0	0	公共下水道へ未接続となっている方につい て、効果的な普及促進を行うためにその理由 などの分析を行う。また、トイレの排水のみ を処理する単独浄化槽では、台所などの排水 がそのまま排出され環境に対する影響が大き いことや、公共下水道へ切り替えることの経 済的メリットを個別訪問により啓発を行うと ともに、普及促進に対する補助金の効果検証 を行い、必要に応じて見直しの検討を行う。
16	教育資金 利子補給 事業	教育総 務課	もう 一歩！ (要改善)	0	7	1	もう 一歩！ (要改善)	もう 一歩！ (要改善)	制度周知が不十分であるため、周知方法の充実が 必要。学校への広報を行い、高校の進路指導時 に情報を提供できるようにするとの良いのではとい った意見があった。 また、対象者約14,000人に対して、交付実績が373 人ということからも本当に必要な人に十分に行き わたっているか。ローンの対象が日本政策金融公 庫のみで良いのか。助成率をもう少し上げられな いのかなど検討が必要ではないかという意見もあ った。 その他、補助金の交付金額、他の支援策の必要性 など、真のニーズの把握も必要になるのではとい う意見があった。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改 善）」となった。	即時 反映	事業の認知度が低かったため、広く周 知していくことが必要であると認識し た。 保護者の就学援助に対するニーズを調 査、分析していく必要があると感じ た。 庁内関係部署と連携して、それぞれの 制度を情報共有し、相互理解を図ると 共にその内容を利用者への情報提供へ つなげる必要があると感じた。	改善	即時反映	0	0	制度の周知が不十分であるという気づきを得 たことから、今後、市内各中学校、高校、専 門学校、大学の進路指導担当の先生に制度内 容を伝え、制度を必要としている人知って もらい、活用してもらえるようにする。

■点検結果が「もう一步！（要改善）」、最終報告が「実行計画・令和2年度予算」となったもの（4事業）

No	事務 事業名	担当課	【点検結果】						【中間報告】	【最終報告】						
			判定	内訳			参考			判定のポイントとなった理由	反映の 方向性	担当職員の 得られた気付き	ア 反映結果	イ 反映先	ウ 効果額(千円)	
ちょっと待った！ (廃止・凍結)	もう一歩！ (要改善)	いいね！ (継続)		コーディネーター判定	市民提案員	スクラップ (減額)	ビルド (増額)									
17	若者の結婚支援事業	広聴相談課	もう一歩！ (要改善)	1	7	0	もう一歩！ (要改善)	—	周知に関して、ポスターなどはもっと目立つ場所に掲示してはどうか。会場に関しては、より魅力的な場所での開催を考えたかどうか。スポーツ観戦などと一緒に開催したらどうかといった意見があった。 また、婚活セミナーは、1回きりでは効果がないのではないかという意見のほか、民間ではなく市で開催するの目的と目指す成果を明確にした方が良いという意見もあった。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。 その他、「ちょっと待った！（廃止・凍結）」と判定した点検員からは、婚活が直接的に対策になっているのか疑問。結婚支援よりも、子育てがしやすい環境が整っていることの方が重要だと思ふといった意見もあった。	即時反映	点検を通じて、「当該事業の目的と内容の周知が不足していること」が分かった。 また、「カップル成立者へ贈っている湖畔美術館入園券等がカップルのニーズに合っているかを確認する必要性」に気づいた。 そのため、今後はより多くの人に事業の開催を知ってもらえるよう、ポスターの掲示施設等を増やしていきたい。また、カップルへ贈っている湖畔美術館入園券等の使用枚数を把握することで、ニーズに合っているかを確認していきたい。	改善	実行計画・次年度予算	661	732	事業の目的と内容について、周知が不足していることに気付いたことから、次年度は、年間3回実施する婚活パーティーのうち、1回分の周知について、これまでの手法に加え、JR駅、小湊鐵道バス車両への有料広告を新たに実施することとした。更に、令和2年度から「婚活inいちはら（婚活パーティー）＋（婚活セミナー）」に加え、当事者の結婚活動支援の輪を広げるため、親や親戚、友人など当事者の結婚活動を支援する方も参加対象とした大規模な婚活セミナー（婚活応援セミナー）を新たに開催することとした。 また、カップル成立時に贈っていた市原湖畔美術館入園券を取りやめ、ニーズの検証を行うとともに、複数種類作成していた広報用のポスター等を見直し、集約を行う。
18	電子自治体の推進	情報政策課	もう一歩！ (要改善)	0	5	2	もう一歩！ (要改善)	—	成果目標の可視化が必要ではないか。例えば、業務時間の削減、窓口申請者の削減、市民の満足度の向上などについて、具体的な数値で示せると良いという意見があった。 また、費用対効果を検討し、仕様書の不断の見直しをしながら進めて欲しいという意見もあった。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	実行計画・次年度予算	電子申請などのサービスは、介護など市役所を訪れることが難しい人こそニーズが高いとの意見があり、改めて、電子市役所の構築の重要性を再認識した。	改善	実行計画・次年度予算	0	0	電子市役所の必要性を再認識したところであり、また、成果目標の可視化が必要ではないかとの意見に基づき、今年度策定予定の新情報化推進計画において、各施策展開の成果を測定する指標を設定することとし、計画のマネジメントの強化を図る。各施策展開や指標の動向を点検することで、次年度の実行計画・予算に反映する。
19	租税教育・啓発事業、租税教室事業	納税課	もう一歩！ (要改善)	0	6	1	もう一歩！ (要改善)	もう一歩！ (要改善)	啓発事業のティッシュ配布は、徴収率の向上にはつながらないため、廃止又は見直した方が良いという意見が多く、それに代わる何か別の事業をやった方が良いという意見もあった。 租税教室については、税金の大切さを子供たちに伝えるため継続した方が良いが、実施する学校を増やすことが課題。まずは教員に対して実施して必要性を理解してもらい、そこから実施校を増やしてはどうかという意見があった。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	実行計画・次年度予算	啓発事業に対する率直な意見を聞くことができ、改善の参考になった。 租税教室については、実施校を増やすための方策について、様々な意見をいただき改善の参考になった。	改善	実行計画・次年度予算	53	0	啓発事業については、ティッシュ配布が徴収率向上につながらないという意見から気付きを得て、来年度は、ティッシュの配布場所を厳選し、配布数も減らして実施する。 租税教室については、実施校を増やすことが課題であるという指摘から、いただいた意見を含め、教育委員会と連携して未実施校に働きかけるなど、実施校の増加を図っていく。
20	いちはら健待フェスタ	保健センター	もう一歩！ (要改善)	0	7	2	もう一歩！ (要改善)	もう一歩！ (要改善)	市民にまだ知られていないため、学校や企業、町会掲示板などへの掲示やSNSの活用など、周知に工夫が必要だという意見が多くあった。 また、このイベントで測定した結果をどのように分析、活用するかが課題で、イベントの次につなげていくフォロー（検診などとの連携）が必要ではないかという意見があった。 その他、開催場所について、多くの人が集まる商業施設で実施したのは良かったと思うが、若い時から健康意識を高めてもらうことが大切であるため、10代20代などの健康への危機感が低い世代にも興味をもってもらえるよう、他場所への展開や、子供向けのイベントとの連携開催など、工夫をしてはどうかという意見もあった。 以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	即時反映	商業施設で実施するメリットとして、イベントの開催を知らない方にも参加していただけたの思いもあり、予算内で行える周知啓発に留まっていたが、健康づくりの関心を高める契機として来場者数を増やすため、周知力を入れるよう、意見をいただき、周知方法について検討が必要であることを実感した。 イベント参加による健康についての気付きがあれば良いと思っていたが、次につながる事業等がないと健康行動につながらないのではとの意見をいただき、その後の行動に繋がる事業の紹介等の工夫が必要であると感じた。	改善	実行計画・次年度予算	0	49	周知が不足しているという指摘から気付きを得て、点検での意見を基に、10月20日に健待フェスタを実施した。具体的には、保育園への周知について、これまで会場付近の4園に行ってきたが、新たに市内全域の認定こども園や認可保育所・園計31カ所に拡大した。また、JR3駅及び京成ちば台駅にポスターを掲示し、駅利用者への周知に努めた。更に市医師会、薬剤師会を始め、関係団体に周知の協力を依頼した。町会回覧による情報提供も新たに予定していたが、災害の影響により未実施となった。 その他、点検では、イベント後の次の行動につなげていくフォローも必要であると指摘があったことから、健待フェスタの会場にて、次につながるような市の他事業を紹介するリーフレットも併せて配布した。 次年度は、ポスターやリーフレットを増刷し、更に周知に取り組んでいく。

■点検結果が「いいね！（継続）」だが、最終報告が「実行計画・令和2年度予算」となったもの（1事業）

No	事務 事業名	担当課	【点検結果】						【中間報告】		【最終報告】				
			判定	内訳			参考		反映の 方向性	担当職員の 得られた気づき	ア 反映結果	イ 反映先	ウ 効果額(千円)		エ 市の考えの方 （具体的な見直し内容や方針）
				ちょっと 待った！ （廃止・ 凍結）	もう一 歩！ （要改 善）	いい ね！ （継続）	コ・デ ィ ネー ター 判定	市民 提案員					スクラップ （減額）	ビルド （増額）	
21	小中学校 トイレ洋 式化事業	教育施 設課	いいね！ （継続）	0	2	6	もう 一歩！ （要改善）	いいね！ （継続）	—	スピード感をもって少しでも早く洋式化を進める必要があると認識した。洋式化率の向上だけではなく、老朽化対策も必要であると認識した。	改善	実行計画・ 次年度予算	0	0	スピード感を持って進めること、洋式化だけでなく老朽化対策も必要であるという意見から気づきを得て、当初、令和8年度に洋式化率50%を目標にしていたが、前倒して短期的、集中的に取り組むこととした。具体的には、校舎については、各校の児童生徒数に応じた個数を洋式化するとともに、老朽化したトイレの環境整備を実施する。体育館及び武道場は、災害時に避難所になることを踏まえ、全てのトイレを洋式化する。こうした取組により、令和5年度までに全小中学校で洋式トイレが充足する「洋式トイレ学校充足率100%」を目指す。

■点検結果が「もう一歩！（要改善）」、最終報告が「行財政改革アクションプランⅡ」となったもの（7事業）

No	事務 事業名	担当課	【点検結果】						【中間報告】		【最終報告】				
			判定	内訳			参考		反映の 方向性	担当職員の 得られた気づき	ア 反映結果	イ 反映先	ウ 効果額(千円)		エ 市の考えの方 （具体的な見直し内容や方針）
				ちょっと 待った！ （廃止・ 凍結）	もう一 歩！ （要改 善）	いい ね！ （継続）	コ・デ ィ ネー ター 判定	市民 提案員					スクラップ （減額）	ビルド （増額）	
22	ふるさと 納税事業	財政課	もう 一歩！ （要改善）	0	6	1	もう 一歩！ （要改善）	もう 一歩！ （要改善）	行財政 改革ア クシ ョン Ⅱ	市原市の魅力、市原市ならではのものを市外にアピールする必要があり、そのためには庁内各部署との連携や、事業者など市役所以外の主体との連携が重要であるとわかった。 ふるさと納税による市税減収の状況について、広く市民に知ってもらうための情報発信が必要とわかった。	改善	行財政改革 アクション プランⅡ 【※】 ID: Ⅱ (1) 06	0	0	本市が抱えているふるさと納税の赤字を解消していくため、まずは、赤字である状況を市民に伝えていく必要があると気づきを得たことから、ふるさと納税により本市の市税がどれだけ減収となっているかについて、ウェブサイト、広報紙等で積極的な情報発信を行っていく。また、寄付額の拡大のため、今後は庁内各部署や民間事業者と更なる連携を図り、新たな返礼品の開発や、効果的なプロモーションなど、本市の魅力を発信していく。
23	地区まつり 助成事業	地域連 携推進 課	もう 一歩！ （要改善）	1	6	1	もう 一歩！ （要改善）	もう 一歩！ （要改善）	行財政 改革ア クシ ョン Ⅱ	地区における最大のまつりにもかかわらず、事業目的と内容を知らない方が意外にも多く、周知方法に工夫が必要であることを認識した。 各地区における地区まつりの位置付けに違いはなく、一律に22万を補助しているが、地区の自助努力を反映させるような考え方も必要であることを認識した。	改善	行財政改革 アクション プランⅡ ID: Ⅲ (1) 03	0	0	制度に関する広報が不足しているという指摘から気づきを得て、まずは、地区まつりの実施主体である町会長連合会の各地区会と連携し、従来から周知手段としている市ホームページや広報いちばらに加え、SNSの活用など、効果的な周知方法の検討・見直しを行う。また、現在、1地区当たり22万円の補助金を一律に交付しているが、地区により、実施方法や規模等が異なることから、来年度、本事業の本来の目的に照らし合わせながら、算定の考え方を整理する。
												【※】 ID＝行財政改革アクションプランⅡ2020における改革項目の管理番号です。 詳細は、行財政改革アクションプランⅡ2020（別冊）参照			

No	事務 事業名	担当課	【点検結果】						【中間報告】		【最終報告】					
			判定	内訳			参考		判定のポイントとなった理由	反映の 方向性	担当職員の 得られた気付き	ア 反映結果	イ 反映先	ウ 効果額(千円)		エ 市の考え方等 (具体的な見直し内容や方針)
				ちょっと 待った！ (廃止・ 凍結)	もう一 歩！ (要改 善)	いい ね！ (継続)	コディ ネー 判定	市民 提案員						スクラップ (減額)	ビルド (増額)	
24	未来創生 ミーティ ング	地域連 携推進 課	もう 一歩！ (要改善)	1	7	0	もう 一歩！ (要改善)	もう 一歩！ (要改善)	市長と対話する機会はなかなか無いので良い事業であるが、テーマ選定、開催回数、開催日（平日参加難しい）、対象者（町会長のみ）等のやり方を見直す必要があるという意見があった。また、本事業の結果や成果を可視化し、市民全体に周知・波及できると良いといった意見もあった。その他、未来創生というネーミングだからこそ、町会長だけでなく、若い人達や女性、働き盛りの方々の話も聞ける仕組みづくりが必要ではないか。予算額は全員参加を前提に考えるべきではないという意見もあった。以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	行財政 改革ア クシヨ ンⅡ	町会加入者であっても、事業目的と内容を知らない方が多いことを認識した。本事業での意見交換がどのように施策に反映されたのかをしっかりと周知するの必要を感じた。町会以外の若い世代等との意見交換など新たな視点の必要性を感じた。	改善	行財政改革 アクション プランⅡ ID: Ⅲ (1) 01	0	0	現在、本市の町会加入率は約6割であるが、町会長連合会は本市最大の協力団体であり、このような団体と意見交換を行うことにより、地域課題の共通認識が図られるため、今後も継続して実施する。しかしながら、今回の市民点検での指摘のとおり、「事業のやり方の見直し」「事業結果・成果の可視化」の必要性も認識していることから、共催者である町会長連合会と連携し、検討・見直しを行うとともに、「町会以外の若い世代等の意見交換」も必要であるとの気付きを得たため、より多くの市民の意見を汲み取れる仕組みづくりを研究する。
25	ユニバー サルス ポーツの 普及事業	スポー ツ振興 課	もう 一歩！ (要改善)	0	6	2	もう 一歩！ (要改善)	—	道具の貸出場所、教える相手など、裾野を広げる手段を再考した方が良い。成果指標（目的）をユニバーサルスポーツの普及共生社会の実現とするならば、アウトカムとして出すべき指標は、変えた方が良いのではないかと。説得するための根拠として、データをとっていくべきという意見があった。その他、ポッチャに取り組める環境が整っているため、良い事業だと思うので、周知を進め、市民の認知度を上げるよう改善して欲しいといった意見もあった。以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	行財政 改革ア クシヨ ンⅡ	裾野を広げるために、単に用具を貸し出すだけでなく、公民館などと連携して事業を進める必要があると感じた。	改善	行財政改革 アクション プランⅡ ID: Ⅳ (1) 07	0	0	年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、様々な人の交流を図るため、ユニバーサルスポーツである「ポッチャ」の裾野を広げることが必要という意見から気付きを得て、まずは、利用促進・利便性の向上を図るため、これまで用具の貸し出し場所としてきた市役所に加え、他の施設でも貸し出しができるようにしていく。また、市民団体と連携した「ポッチャ体験会」の開催などにより、更なる普及促進に取り組んでいく。
26	街路樹管 理事業 (交差点 伐採)	道路維 持課	もう 一歩！ (要改善)	0	5	2	いいね！ (継続)	—	街路樹が大きくなってからの対応も必要だが、現時点で支障のない街路樹について、先を見た対応も重要ではないかと。植樹の段階から将来を見据えた管理が必要ではないかという意見があった。（減らす、見直すではなく、これは必要でないという選択もある。）また、目的は交通の安全確保であるため、街路樹だけではなく雑草などの対応も重要であるといった意見もあった。以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	行財政 改革ア クシヨ ンⅡ	事業を進めるにあたって、周知が不足しており、町会等へのPRが不足していると感じた。大きくなっていない高木を後回しにせずに、小さなうちから伐採を進めていくことも必要であると感じた。街路樹の剪定にも、力を入れていくべきであると改めて感じた。	改善	行財政改革 アクション プランⅡ ID: Ⅱ (4) 04 に含まれる	0	0	交通の安全確保のため、点検でいただいた意見を取り入れながら、伐採する街路樹の優先順位を検討するなどして取り組んでいく。また、指摘のあった植樹樹等の除草について、回数を増やすなど事業費の拡充を図り、市道の安全性と道路環境の向上に努めている。
27	緑化推進 事業（生 垣設置奨 励補助 金）	公園緑 地課	もう 一歩！ (要改善)	1	5	1	もう 一歩！ (要改善)	—	生垣の設置だけでなく、特に高齢者に対しては、その後の維持管理にも目を向けていく必要があるのではないかと意見があった。また、「ブロック塀等取り壊し補助」については、実績もゼロで、他の部署で類似事業もあるの、統廃合の検討をしても良いのではという意見があった。その他、生垣にこだわらず、時代背景に合わせた緑化推進を行ったらどうかという意見もあった。以上の理由から、判定は「もう一歩！（要改善）」となった。	実行計 画・次 年度予 算	生垣が成長することによる植栽後の管理が大変であることや、隣接地権者とのトラブルの元になり得るため、設置を敬遠している人がいることを認識した。	改善	行財政改革 アクション プランⅡ ID: Ⅱ (2) 02	0	0	生垣設置後の維持管理が大変であるといった意見から気付きを得て、補助金要綱を変更し、これまで対象としてきた中木（成長すると2m以上になる）に加え、維持管理が容易な低木も対象とすることとし、補助金を活用してもらいやすくする。また、今後も住民ニーズを注視しながら緑化推進に努めている。

No	事務 事業名	担当課	【点検結果】						【中間報告】		【最終報告】					
			判定	内訳			参考		判定のポイントとなった理由	反映の 方向性	担当職員の 得られた気づき	ア 反映結果	イ 反映先	ウ 効果額(千円)		エ 市の考え方等 (具体的な見直し内容や方針)
				ちょっと 待った！ (廃止・ 凍結)	もう一 歩！ (要改 善)	いい ね！ (継続)	コディ ネーター 判定	市民 提案員						スクラップ (減額)	ビルド (増額)	
28	文化芸術 振興助成 事業	ふるさと文化 課	もう 一歩！ (要改善)	0	5	0	ちょっと 待った！ (廃止・ 凍結)	—	実行計 画・次 年度予 算	当補助金事業についての市民認知度が低いことがわかった。 市民活動支援課の事業である「ひとときらめく市民活動補助金」との類似性も散見されるため、事業内容の精査が必要である。	改善	行財政改革 アクション プランⅡ ID: Ⅱ(2)03	0	0	補助金利用の応募数が少ないため、裾野を広げていく必要があるという指摘から気づきを得て、これまで行ってきた市ウェブサイトや広報紙での情報発信に加え、制度概要を記載したチラシを新たに作成し、他部署が開催している市のイベントや、公民館、学校等で配布し、制度の周知を図る。 また、類似性のある補助金事業との整理を行い、市民の方々がより利用しやすい市民視点の補助制度となるよう検討していく。	
【事業目的】 市内で、活発な文化芸術活動が数多く行われることで、賑わいのある豊かなまちを作る。																
【事業内容】 文化芸術事業を行う団体のために、補助金の交付や周知等の支援をしている。																

■点検結果が「いいね！（継続）」、最終報告で「継続」となったもの（4事業）

No	事務 事業名	担当課	【点検結果】						反映の 方向性	【中間報告】 担当職員の 得られた気づき	【最終報告】					
			判定	内訳			参考				判定のポイントとなった理由	ア 反映結果	イ 反映先	ウ 効果額(千円)		エ 市の考え方等 (具体的な見直し内容や方針)
				ちょっと 待った！ (廃止・ 凍結)	もう一 歩！ (要改善)	いい ね！ (継続)	コディ ネーター 判定	市民 提案員						スクラップ (減額)	ビルド (増額)	
29	まちづくり 促進事業	都市計 画課	いいね！ (継続)	0	3	4	いいね！ (継続)	—	地域に住む人だからこそ気がつくことがあると思うので、地域の活性化のために良いと思った。このまま続けて欲しい。住みやすい町にするために、自分も何ができるか考えるところから始めたいなどといった意見があり、判定は「いいね！(継続)」となった。 一方で「もう一步！(要改善)」と判定した点検員からは、市全体にアプローチする必要はないと思うが、市民にもっと事業の認知度を上げる工夫をした方が良いなどという周知に関する意見が多くあった。	—	支援内容には概ね理解を得られた。ただし、事業目的と内容に対する市民の認知度が低い(ほぼ無い)ということを認識した。	継続	—	0	0	事業の認知度を上げるため、制度の概要や活動内容の分かるリーフレットを作成するとともに、ホームページ等で周知を図る。
【事業目的】 地域の課題を良く知る住民が、快適で暮らしやすい生活環境を生み出すため、土地利用のルールや必要とするインフラについて検討し、地域の目指すまちの姿を実現する方法などを「まちづくり構想等」として明らかにしていただく。																
【事業内容】 地域の課題解決に取り組む団体が、土地の使い方、インフラなどの整備に関する目標や方針、基準、進め方などを「まちづくり構想」として明らかにする活動を支援する。																
30	読書教育 推進事業	指導課	いいね！ (継続)	0	3	4	もう 一歩！ (要改善)	—	児童生徒の学力を向上させるためにも事業を進めて欲しい。読書の楽しさを伝えられるよう、他の良い事例を参考にするなどして推進して欲しいなどという意見から、判定は「いいね！(継続)」となった。 一方で「もう一步！(要改善)」と判定した点検員からは、読書は堅いイメージなので、もっと子ども目線で進めたら良いといった意見や、有資格者である学校司書にこだわらず、無人の時間にボランティア等に入ってもらうのも良いのではという意見があった。 また、目標達成を確認するための調査(アンケート、声を聞くなど)を実施したらどうか。中央図書館との連携について、知らない生徒が多いのでもっと広めたい方が良いといった意見もあった。	—	心を育て、学力の向上にもつながる読書教育について、市民の方々も必要性を強く感じていることが分かった。人のいる図書室、という環境が整えられていくことを望む声が多いことを感じた。	継続	—	0	0	読書教育活動の充実、児童生徒の豊かな感性と創造性の育成につながり、市民の方々にも、必要性を強く感じていただいているとの認識をさらに強くしている。今後も学校図書館の有効活用と、読書教育のさらなる充実を目指し、利用状況の把握や調査に努めていく。また、引き続き中央図書館との連携の仕方や情報発信について、工夫していきたいと考える。
【事業目的】 学校図書館を有効に活用し、読書教育活動をさらに充実させ、児童生徒の豊かな感性と創造性を育成することを目的とする。																
【事業内容】 児童生徒の豊かな感性と創造性の育成に向け、学校司書を全校に配置し、学校図書館の有効活用や、読書教育活動のさらなる充実に取り組んでいる。																

No	事務 事業名	担当課	【点検結果】						【中間報告】		【最終報告】					
			判定	内訳			参考		判定のポイントとなった理由	反映の 方向性	担当職員の 得られた気づき	ア 反映結果	イ 反映先	ウ 効果額(千円)		エ 市の考え方等 (具体的な見直し内容や方針)
				ちよつと 増った！ (増止・ 減結)	もう一 歩！ (要改 善)	いい ね！ (継続)	コ・デ ィネー ター 判定	市民 提案員						スクラップ (減額)	ビルド (増額)	
31	特別支援 教育推進 事業	教育セ ンター	いいね！ (継続)	0	2	5	もう一 歩！ (要改善)	いいね！ (継続)	もっと支援を進めていって欲しいという意見や、相談件数が増えてきているので、今後の状況を見ながら、人件費の増額も必要になってくるのではないかとといった意見から、判定は「いいね！(継続)」となった。 一方で「もう一歩！(要改善)」と判定した点検員からは、他の機関(他部や県)との連携等について、具体的に方法を決めて、しっかりと取り組んで欲しいという意見があった。 また、アンケートで相談員訪問が有効だったという割合が増えているが、実際にどのような成果があったのか事例等を示せるとより良いと思うといった意見もあった。	—	特別支援教育事業について市民の方々にわかりやすく伝えていくことが大切であると感じた。 特別な支援を必要とする幼児児童生徒への支援を進めていく上で、他の機関との連携が重要であることを再認識した。	継続	—	0	0	特別な支援を必要とする幼児児童生徒への支援を進めていく上で、他の機関との連携が重要である。現在設置されている市原市特別支援教育等連携協議会において、各機関との連携をさらに強めていきたい。特に幼児教育に携わる施設と教育センターとの連携を強めていく。 また、市民の方々にわかりやすく伝えていくためには、様々な機会を通じて周知していくことが大切である。上記の連携協議会を活用して、関係機関からも特別支援教育推進事業について周知できるよう働きかけていく。
32	文化財普 及啓発事 業	ふるさと文化 課	いいね！ (継続)	0	2	3	もう一 歩！ (要改善)	—	市原にこんなに素晴らしい文化財があると分かってもらえば、市原に愛着をもってくれる人は増えるのではないかと。子供たちも誇りを持つようになるのではという意見から、継続すべき事業として、判定は「いいね！(継続)」となった。 一方で「もう一歩！(要改善)」と判定した点検員からは、文化財の魅力をもっと市民に伝えるための周知方法の工夫や、核となる人材づくりから自主的な広がりを目指すなどの取組も必要だという意見があった。 また、歴史セミナーについては、既に人気で満席状態であるため、県外に行くのはやめて、市内の文化財にクローズアップして回数を増やしたらどうか。若い人にも参加してもらえよう、発信の方法を工夫すると良いのではという意見があった。 その他、博物館建設に関しては、市民に興味を持ってもらえるよう、建設過程の映像を公開するなど、市民が関われる仕掛けがあると良いのではないかと意見もあった。	—	歴史セミナーの開催や文化財のポスター掲示による宣伝、インターネット博物館による情報発信など、様々な手法で文化財の周知を図っているが、事業目的と内容を知らない市民も多いことがわかった。	継続	—	0	0	市原への誇りと愛着を醸成するため、既に実施している周知方法に加え、「知る人ぞ知る」から、より広く周知するための手段を検討していく。